

全国自立援助ホーム協議会(制度編) ハンドブック コラム

自立援助ホーム「ハレルヤ・ファミリー」

ホーム長 森 健太郎

(ハレルヤ・ファミリー) ホームが開所して今年で11年目となり、たくさんのホーム卒業生を社会に送り出してきました。そんな中、初めてホームから自立し、大学へ進学する青年が現れました。制度の変化とともに、奨学金も充実してきたこともあり、いつかは自然に大学に行く者も出てくるだろうと感じてはいましたが、彼の大学進学は私にとって忘れられない記憶に残るものとなりました。

進学したN君がホームで生活をした期間は3年半。ホームに来る前は、中学卒業後高校には行かず、少しのアルバイトをしながら家族と共に暮らしていました。彼と最初に面談を行った時に私は彼の聰明さを感じると共に、人に対する繊細さも感じられ、どのように共に歩んでいくべきか少し不安を感じました。彼が心から喜んで自分の道を見つけ、ここから巣立っていって欲しいと祈るような気持ちだったことを覚えています。ホームで生活をする上でアルバイトは欠かせないものであり、こちらに来てすぐにアルバイトを探し始め、色々なアルバイトを経験しながら毎日を過ごしていました。また同時に通信制高校の入学もホーム職員の勧めにより、本人が希望したため、少し遅めの高校生活がスタートしました。アルバイトは、兄の影響もあり土木・建設業の仕事を何件か行いましたが、こちらから見ても彼には合っていない事が一目瞭然で、職員もあまり無理にそれらの仕事を勧めなくなりました。そんなある日。埼玉のアフターケア相談所コンパスナビ様から、社会的養護施設出身者が利用できる情報サイト制作のアルバイト募集のお話をいただき、ハレルヤ・ファミリーに入居していた青年達に声をかけてみました。その提案にN君が「やってみたい。」と答えてくれたため、後日その取材のアルバイトにホーム職員と一緒に出かけ、コンパスナビの職員の方と充実した取材の時間を過ごさせていただきました。今となってはそれが彼にとっての人生の転換点だったと深く感じています。社会的養護施設出身者のために一生懸命支援をしている人に出会い、彼の心が大きく動いたのを感じました。それからN君はコンパスナビに通うようになり、少しずつ沢山の人との繋がりを持つようになっていきました。民間で社会的養護施設出身者のアフターケアを行なっている団体との繋がりを深め、自分の居場所をそこに見出し始めました。それからしばらくして、彼が私に「これから毎週土曜日に東京の一時保護所でボランティアをすることにしました。」と事務所に伝えに来ました。私は「それは一体どういうこと?一時保護所でボランティア?」と聞き返すと、彼は今一般社団法人子どもの声からはじめようという団体に所属し、児童相談所の一時保護所にいる子どもたちの心の声を聞くアドボカシー活動に参加する意思があることを丁寧に説明してくれました。私たちホーム職員もその事を承諾し、代表の方からも連絡を頂き、彼の一時保護所のボランティアがスタートしました。それから雨の日も風の日も休む事なくボランテ

ィアに出かけ一年半の月日が過ぎました。彼は多くの経験を通して自分が将来福祉の分野で生きていきたいとはっきりとした目標を見つけ、そのためには大学で福祉を学び社会福祉士の資格を取りたいと将来の希望を持つことができ、多くの支援者に支えられながら大学受験に臨みました。その間も楽しいことばかりではなく、とても辛い経験もあり心配な時もありましたが沢山の人に支えられて無事に大学受験に合格することができました。本人とともに大いに喜んだのを今でもはっきりと覚えています。彼はホームを卒業する時に「社会的養護施設出身者の居場所を作りたい。」と目を輝かせて旅立っていました。当事者でしか分からない苦しみ、葛藤、悩み、それらを全て経験してきた彼だからこそ、将来沢山の子どもたちの良き理解者となってくれることでしょう。子どもたちの声を丁寧に聞き取り、安心して生活ができるような社会を夢見て祈りながら、これからも共に彼と一緒に歩んでいきたいと思います。